

平成 28 年 3 月期 第 3 四半期累計期間の業績（連結）について

（1） 売上収益

当第 3 四半期連結累計期間の売上収益は、前年同期比 52 億円（4.8%）増加して 1,124 億円となりました。

長期収載品は後発品使用促進策の影響を受けて減少となったものの、グラクティブ錠などの主要新製品の売上が堅調に推移しました。特に、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」、頻脈性不整脈治療剤「オノアクト点滴静注用」は、期初計画を上回る状況です。また、一昨年 9 月に世界に先駆けて発売いたしました抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、昨年 12 月に「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」に対する効能・効果追加を受けたことにより通期計画を上回る 57 億円（前年同期比 288.2%増）となりました。

また、オブジーボに関しましては、ライセンス収入においても増収に寄与いたしました。

なお、前年同期に ONO-4059 導出に伴うギリアド・サイエンシズ社からのライセンス収入 83 億は、当第 3 四半期における減収要因となっています。

（2） 営業利益

営業利益は、前年同期比 59 億円（35.5%）増加の 223 億円となりました。

売上収益が前年同期比 52 億円増加して、第 1 四半期において退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響（減少）から人件費が 63 億円減少しています。その影響を除く「研究開発費」「販売費及び一般管理費」は増加しているものの、売上収益の増加と過去勤務費用の影響があり、59 億円の増益となりました。

売上原価は売上高の増加を反映して前年同期比 32 億円（12.1%）増加の 300 億円となりましたが、研究開発費が前年同期比 6 億円（2.0%）減少の 294 億円、研究開発費を除く販売費および一般管理費が前年同期比 21 億円（6.5%）減少の 304 億円となったことなどにより 59 億円の増益となりました。なお、当期の経費については第 1 四半期に行った退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響から人件費が 63 億円減少しています。その影響を除いた損益の状況については決算短信の 16 ページに記載しておりますので、ご覧ください。

研究開発費については、オブジーボ関連の治験費用が増加しており、退職給付制度の影響を除けば 16 億円（5.4%）の増加となります。また、販売費及び一般管理費についても、退職給付制度の影響を除くと、オブジーボの販売体制拡張のためにがん専門 MR を増員したことや、非小細胞肺癌承認に伴い営業経費が増加した等の要因で、15 億円（4.7%）の増加となりました。

(3) 親会社所有者に帰属する四半期利益

親会社所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比 35 億円 (22.1%) 増加し、192 億円となりました。

なお、退職給付制度改定の影響を除いた親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、16 ページに記載の通り、14 億円 (8.8%) 減少の 143 億円となりました。

平成 28 年 3 月期の業績予想 (連結) について

これまでの業績状況や、抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」が昨年 12 月に「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」に対する効能追加を取得したこと等から、今後の売上収益、経費の発生見込みを踏まえ、通期の業績予想を修正しました。

(1) 業績予想の修正

売上収益を 1,445 億円から 115 億円上方修正し、1,560 億円
営業利益を 152 億円から 88 億円上方修正し、240 億円
税引前利益を 178 億円から 87 億円上方修正し、265 億円
親会社の所有者に帰属する当期利益を 131 億円から 55 億円上方修正し、186 億円に修正させていただきます。

(2) 売上収益

売上収益は前期比 202 億円 (14.9%) 増の 1,560 億円を予想しています。

長期収載品については後発品使用促進策の影響を引き続き受けるものの、昨年 12 月に「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」に対する効能・効果追加を追加取得しました「オブジーボ点滴静注」の売上予想を 120 億円上方修正し、175 億円としました。また、現在の売上動向を踏まえ、「オノアクト点滴静注用」の売上予想も 10 億円上方修正して 60 億円としました。

これらにより、売上収益を前回予想の 1,445 億円から 115 億円引き上げ、前期比 202 億円 (14.9%) 増の 1,560 億円と予想しています。

(3) 営業利益

営業利益は前期比 92 億円 (62.2%) 増の 240 億円を予想しております。

売上原価は、売上収益が増加するとともに製品構成の変化から原価率が若干上昇するために、前期比 64 億円 (18.1%) 増の 415 億円を予想しています。

研究開発費は、オプジーボの価値最大化に向けての臨床試験の増加に伴い、前期比 37 億円増の 450 億円を予想しています。なお、第 2 四半期累計期間の決算発表時に 460 億円と予想していましたが、治験薬経費の一部計上が翌期にずれ込むこと等により、前回公表に対しては 10 億円の減少の予想となっています。

販売費及び一般管理費は、オプジーボの効能追加に伴う営業経費の増加により、前回修正しました予想 440 億円からさらに 5 億円増の 445 億円を予想しています。

以上の要因により、営業利益は前期比 92 億円 (62.2%) 増の 240 億円を予想しています。

(4) 親会社の所有者に帰属する当期利益

親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比 56 億円 (43.3%) 増の 186 億円を予想しています。

営業利益が 88 億円の上方修正となったことから、税引前当期利益も 87 億円上方修正の 265 億円となりました。

また、税引前当期利益に増加に伴い法人税等の税金費用も増加することから、親会社の所有者に帰属する当期利益は前回修正予想の 131 億円から 55 億円 (42.0%) 上方修正し、前期比では 56 億円増 (43.3%) 増となる 186 億円を予想しています。

なお、期末配当金につきましては、1 株当たり 90 円とさせていただく予定で、変更はございません。